

# 福島県の中学生・高校生の心および性の意識について

## — 震災後に行なったアンケート調査より —

\*\*\*\*\*

福島県医師会常任理事

本多 静香

福島県産婦人科医会

### 【背景】

福島県においては、10代の人工妊娠中絶率が全国上位にあり、また性感染症患者の中にしめる若者の割合も幾分減少傾向にあるもののいまだ全国平均より高い。これまで、福島県産婦人科医会は性教育を充実させ、若者たちの性感染症と望まない妊娠を減少させるため平成16年に「10代生徒への性に関するアンケート」、平成19年に「中学生の性に関するアンケート」を実施してきた。

このような状況の中で、2011年3月11日東日本大震災および原発事故が起きた。福島県産婦人科医会では、「被災により、家族や周囲の人々とのつながりや、生命観に対する意識の変化があるのではないか」また「被災後の現状を把握することで、今後の“生と性の教育”に役立てるべき」との意見が提起された。

### 【目的】

中学生・高校生の心と性に関して、経時的変化と東日本大震災及び原発事故が及ぼした影響について調査・分析し、今後の取組みに役立てることを目的としてアンケート調査を行なった。

### 【方法】

県内の中学生・高校生を対象にアンケート調査表を5767名に配布し、4761名から回収した。(回収率82.5%。調査時期は平成24年6月から10月まで)

属性は中学生1896名、高校生2865名、男子生徒と女子生徒はそれぞれ50%、50%、地区別では県北490名、県中・県南1233名、会津1043名、相双919名、

いわき1076名であった。

### 【結果】

#### 1) 中高生・男女別の震災前後における心の変化について

「あなたにとって「学校の友人関係」「学校の授業のイメージ」「家庭のイメージ」が震災前後でどのようなものか」に対し、「楽しい」「楽しくない」「どちらともいえない」という選択肢では、中高校生、男女別で震災前後ではその割合に明らかな変化はなかった。「友人・家族に対する思いは震災前後で変わりましたか」に対し、「以前より大事に思う」ようになった割合は中学生・高校生女子では60%前後を占め、中学男子では48%、高校生男子では41%を占めた。また、「私に良いところがたくさんある」「私は自分に満足している」という自己肯定感に対する質問では、震災後、「そう思う」を選択した割合は増加していた。「自分のこれからの生き方についてどのように考えるか」については「以前より真剣に考えるようになった」割合は中高校生・男女別で各30-40%を占め、「なるようにしかならない」は減少した。

#### 2) 地区別の震災前後における心の変化

心の変化について県北、県中・県南、会津、相双、いわきの地区別でみたところ、すべての地区において自己肯定感が強くなり、これからの生き方を真剣に考えるという結果が得られた。特に、被災が多かったいわき、相双でその傾向が強かった。

#### 3) 性に対する意識について

「あなたは現在、相談できる友人はいますか」に

については、中学生における前回調査と比較し、「同性・異性の友人がいる」の割合が高かった。「小学校以降で特定の異性を好きになったことはありますか」の問いに対して、中・高校生ともに女子で「ある」と答えた割合が男子に比較し高かった。その時どうしたのかについては「何もしなかった」と答えた生徒が減った。「性交」を求められた時の態度については、前回調査と比較しあまり変化がなかった。「性交してもよい」と答えた生徒では、中高校生男子の2割、中高生女子の1割は「愛情がなくても」「初対面でも」と答え前回調査と変わらなかったが、中学生男子では「愛情が深まれば」が増えた。

### **【まとめ】**

震災後において「生」に対しては、自己肯定感が強くなり、生き方を真剣に考える中高校生が増えた。特に、いわき・相双地区でその傾向が強かった。「性」に対しては、前回調査と比較して、積極的な意識がうかがえた。